

トピックス

・世界初 生体肺中葉移植に成功

岡山大学病院は7月1日、重い肺の病気に苦しむ3歳の男児に、母親の肺の「中葉」部分を移す生体肺移植を実施し、無事成功しました。生体肺中葉移植の成功は世界初で、同時に国内最年少患者への肺移植となりました。

今回の手術の背景には、改正臓器移植法施行後3年たった今も、15歳未満の脳死ドナーが2人しか現れておらず、脳死移植の可能性は低いという状況があります。そのため、担当医が男児の両親と話し合い、生体肺中葉移植に臨むことにしました。通常、生体肺移植は肺活量の多い「下葉」部分で行いますが、体の小さい子どもにとって大人の「下葉」は大きすぎるが多く、「下葉」よりも小さい「中葉」を使うことでこの課題をクリアしました。

執刀医の大藤剛宏呼吸器外科准教授は、「今まで移植ができなかった子どもたちに勇気を与えられる成果だ」と話しています。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/topix/topix_id263.html



・がん陽子線治療センター 平成28年3月開業を目指す

岡山大学と財団法人津山慈風会・津山中央病院は7月26日、「岡山大学・津山中央病院共同運用／がん陽子線治療センター」を津山中央病院敷地内に開設し、平成28年3月の開業を目指すと発表しました。陽子線や重粒子線などの粒子線治療を行う施設は現在、全国で11施設のみで、本センターが完成すれば、中四国地方初の粒子線治療施設となります。

津山中央病院は本学に寄付講座「陽子線治療学講座」を設置し、同講座の教員を中心に同センターでの診療や研究、人材育成を行います。また、岡山大学病院は「陽子線治療外来」で広く患者を受け入れ、同センターと患者を結びます。

参

考

http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id2660.html



最近の大学の取組

・地域活性化、まちづくりに教職員・学生企画を公募 19企画を採択

地域総合研究センターは、昨年度に引き続き、まちなかキャンパス事業学生・教職員企画を募集し、応募のあった19事業（学生企画15件、教職員企画4件）を採択しました。

まちなかキャンパス事業は、学生や教職員が住民や行政、企業、経済界などと対話しながら、地域が抱える課題の解決策を考えたり、まちづくりのアイデアや大学と地域をつなぐ取り組みを実践するもので、今年度は昨年度の約2倍の応募がありました。特に、今年度は、学生企画にあっては、サポーター制度を導入し、学生の企画を応援する教職員をサポーターとして事業に関わっていただくことで、教職員の意識改革を図ることも狙いの一つとしています。

7月8日（月）には、今後の活動内容について共有するとともに、より多くの教職員サポーターを募集するため、学生企画の採択された各団体によるプレゼンを実施しました。学生たちによるクオリティの高い企画内容の紹介や趣向を凝らしたプレゼンに、今後の活動が期待されます。

参考 <http://www.okayama-u.ac.jp/user/agora/campus/index.html>

最近注目の研究

・微生物が作る酸化鉄から独創的エコ機能材料・シリカチューブを世界で初めて開発

大学院自然科学研究科（無機材料学研究室）の高田潤特任教授の研究グループは、地下水が湧き出る水辺で微生物が作る従来不要物とされていた酸化鉄を原料として、ナノ粒子から構成される人工的に作製困難なシリカ・マイクロチューブ材料を開発し、これが有機合成反応で優れた触媒活性を示すことや様々なガスの吸着機能が高いことを世界で初めて見出しました。本研究成果は、2013年5月13日、米国の科学雑誌『ACS Applied Materials & Interfaces』に掲載されました。

微生物が作る酸化鉄には様々な種類や形状のものがあり、今後これらの酸化鉄由来のシリカ材料の機能開拓を進めれば、未利用の酸化鉄から全く新しい未来機能材料が創りだせるものと期待されます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id74.html

・がんを標的する抗体医薬の耐性因子を解明

大学院自然科学研究科ナノバイオシステム分子設計学分野の妹尾昌治教授、笠井智成助教らの研究グループは、抗体医薬に対する耐性に関わるタンパク質と耐性機構を世界で初めて明らかにしました。本研究成果は、2013年6月21日に米国の科学雑誌『Journal of Cancer』に掲載されました。

乳がんの特効薬として一躍脚光を浴びた「トラスツズマブ」は、がんの細胞表面のHER2（またはErbB2）と呼ばれるタンパク質に対する分子標的薬で、HER2が過剰ながん細胞の乳がん患者に使われますが、この薬に耐性で効果が無い患者も多く、原因解明が急がれています。今回の成果を応用することで、抗体医薬品によるがん治療効果を予測して奏効率を上げることや分子標的薬の開発に大きく貢献することが期待できます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id81.html

学生の活躍

・国際交流スピーチコンテストを開催

言語教育センターは、留学生と日本人学生が国籍や言語、文化を超えて相互に理解するきっかけにしようと7月10日、国際交流スピーチコンテストを開催しました。

サウジアラビアやインドネシアなど4カ国7人の留学生と日本人学生計10人が日本語でスピーチ。食文化やジェスチャーに母国と日本の違いを実感したり、あえて「救急」の文字を反転させ前を走る車から見えやすくした工夫に日本の繊細さを感じたという体験、周りの人の助けで買い物やコミュニケーションが上手にできたエピソードなど、ユーモアを交えて紹介し、言葉が通じるだけでなく互いに理解し、認め合うことが大切と話しました。国際交流に関心のある一般の方や学生ら約100人が参加し、熱心に聴講しました。



行事予定

- ・岡山大学 Alumni（全学同窓会）設立総会 10月19日（土）10:00～ 岡山大学創立五十周年記念館
- ・岡山大学ホームカミングデイ 2013 10月19日（土）10:00～ 岡山大学創立五十周年記念館

岡山大学は、以下のページでも情報を発信しています

- ・岡山大学公式ホームページ <http://www.okayama-u.ac.jp/>
- ・岡山大学 Facebook ページ <https://www.facebook.com/OkayamaUniversity>
- ・岡山大学 Twitter https://twitter.com/okayama_uni

【お問合せ先】 岡山大学総務・企画部 企画・広報課

Tel : 086-251-7293, 7292 Mail : www-adm@adm.okayama-u.ac.jp